

1 加須市が目指す学校教育の姿

(1) 魅力ある学校とは

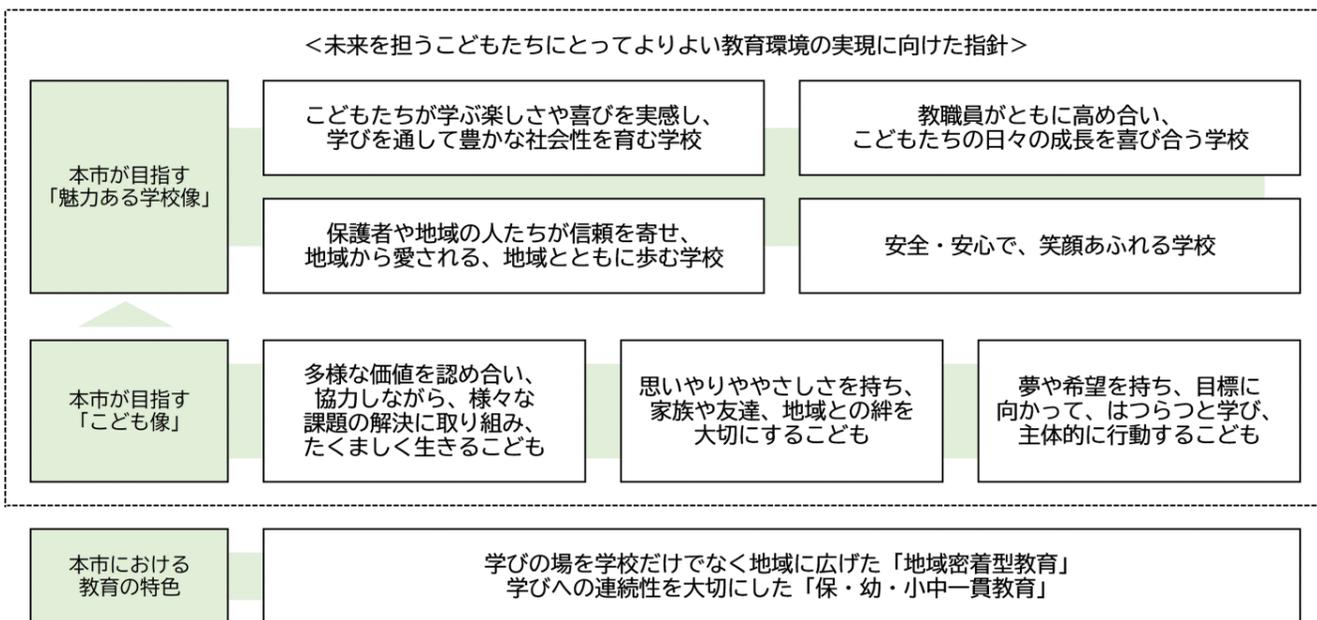
本市では、目指す学校教育の姿や地域の実情等を踏まえ、「将来を見据えた持続可能な魅力ある学校づくり」の推進に取り組みます。魅力ある学校とは、未来を担う子どもたちにとってよりよい教育環境を目指し続ける学校のことです。

(2) 将来を見据えた持続可能な魅力ある学校づくり

魅力ある学校づくりを進めるため、本市が目指す学校教育の姿として、「子ども像」と「魅力ある学校像」を次のとおり設定します。本市における教育の特色のもと、学校・家庭・地域・行政が目指すべき学校教育の姿を共有し、将来を見据えた魅力ある学校の実現を目指します。

将来を見据えた持続可能な魅力ある学校の実現

学校・家庭・地域・行政が、目指すべき学校教育の姿を共有し、一層の強い絆で結ばれた教育を展開



2 加須市の現状と見込み（学校ごとの詳細は裏面参照）

児童生徒数は、平成23年以降、減少傾向が続いています。

児童生徒は、多様な人間関係の中で社会性を育てていくことから、児童生徒数の減少による学校の小規模化は、こどもの豊かな社会性を育む観点からも憂慮すべき状況です。

また、保護者や地域の方から今後の小中学校のあり方について懸念する声寄せられるようになりました。



3 持続可能な魅力ある学校づくりに向けて

持続可能な魅力ある学校を実現するため、未来を担う子どもたちにとってよりよい教育環境を、学校規模・学校配置及び学校形態等によって具現化を図ることとし、その考え方を次のとおり定めます。

学校規模の方針

「望ましい学級数の目安」を目指しつつも、「少なくとも必要な学級数の目安」を重視し、今後20年を見据えた持続可能な学校規模を検討します。

- 望ましい学級数の目安は、小学校12学級以上、中学校9学級以上とする。
- 少なくとも必要な学級数の目安は、小学校6学級以上、中学校3学級以上とする。

学校配置の方針

「学校規模の方針」とともに、以下の3つの考え方に基づき、今後20年を見据えた持続可能な学校配置を勘案し、統廃合等の学校再編に向けた方策を検討します。

- 国が示す通学距離（小学校おおむね4 km以内、中学校おおむね6 km以内）、通学時間（小中学校ともにおおむね1時間以内）に関する考え方も参考とする。
- 必ずしも行政区やこれまでの通学区域に捉われない全市的視野に立つとともに、学校施設の老朽化等への対応状況や地域特性などを勘案する。
- 保護者や地域住民との十分な合意形成を基本に、対象となる市立小中学校のうち小規模化が顕著な小学校を最優先に順次進める。

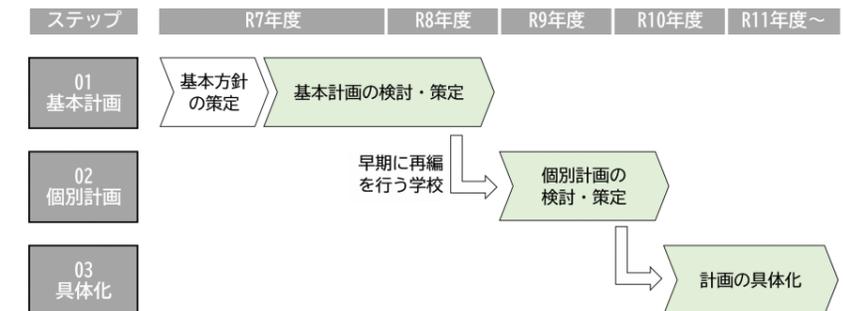
学校形態や通学区域の検討を含む対応

- 「小中一貫型小学校・中学校」や「義務教育学校」といった学校形態をはじめ、「小規模特認校」や「学びの多様化学校」といった制度の活用、施設の複合化なども含め検討する。
- 今後の児童生徒の推移などを踏まえ、通学区域を検討する。

4 今後の進め方

基本方針の策定後は、「基本計画の策定」「個別計画の策定」「計画の具体化」という3つのステップを踏んで進めていきます。

各ステップでは、保護者や地域住民の皆様との十分な合意形成を基本に、意見交換会やパブリックコメントなどを通じて、皆様の声を丁寧に伺い、計画に反映していきます。



将来を見据えた持続可能な魅力ある学校づくりの推進
未来を担う子どもたちにとってよりよい教育環境の実現

基本方針の本編や児童生徒へのアンケート調査の結果は、市ホームページで公開しています。

加須市魅力ある学校づくり基本方針



加須市魅力ある学校づくりに関する児童生徒アンケート調査結果



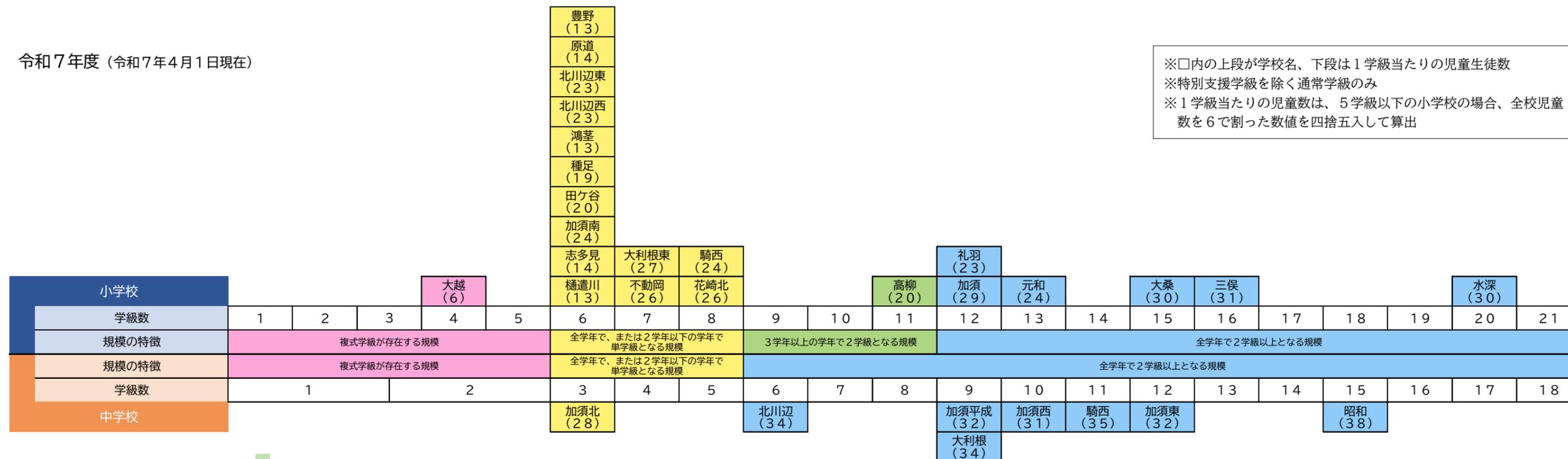
【学校別の学級数及び1学級当たりの児童生徒数の現状と見込み】

令和7年度（現状）と令和13年度（見込み）の学校別学級数と1学級当たりの児童生徒数を規模の特徴ごとに図で示したものです。

令和7年度から令和13年度にかけて、ほぼ全ての小学校において学級数が減少する見込みです。中でも、複式学級が存在する学校数は、令和7年度の1校から令和13年度には6校と大幅に増加しています。

小学校	過小規模校	小規模校	中規模校	大規模校
中学校	過小規模校	小規模校	中規模校	

令和7年度（令和7年4月1日現在）



令和13年度

（令和7年4月1日現在、住民登録をされている各小学校区の年齢別人口を基に、転出入など社会増減を見込まないとした場合の参考値）

